優良農家の紹介

11　育種に魅せられて　～生産者育種の取組～

1　はじめに

加西市の中山高行氏（59才）は、昭和46年に姫路市より転居、シクラメンの鉢花栽培で農業をスタートした。現在は、約60ａの経営面積で、ポットハボタンを主力に花壇苗を年間約25万ポット生産し、その育種にも力を入れて取り組んでいる。

2　育種に取り組んだきっかけ

初めはサイネリアを栽培しているときに満足できる品種が見あたらず、「無かったら自分で作ろう」と育種に取り組み始めた。それまで育種について専門に勉強したことは無かったが、農業関連の新聞や雑誌、本を読んで、稲や野菜などの育種事例から手法を学び、少しずつ実践してみた。ハボタンは20年ぐらい前に選抜育種から始め、現在は交配での育種に取り組んでいる。

3　育成品種の紹介

ある市場の展示会で見た珍しいハボタンをヒントに、芽キャベツとハボタンを交配することで、今までにない新しい形のハボタンを育成した。育成品種「根日女（ねひめ）の月」、「根日女の光」、「根日女の星」、「根日女の杜」（品種登録出願中）は、“キャンドル”シリーズとして大阪や愛知の市場に出荷している。

4　育種のおもしろさ

交配をしているときに、全く形質の変化が見られない年があった。少しがっかりしながらも、変化の無かった世代を親に再度交配をしたところ、翌年に２年分以上の形質変化が現れ、一気に育種が進んだ。このときの体験がとてもおもしろく、現在まで育種を続けてきた基になったそうである。

5　育種に取り組む人へ

育種はこれからも続けていく方針で、「育種は時間と根気のいる仕事だが、まず、やってみることが第一。変化が出ると面白くなってくる。関心のある人には、是非、取り組んでほしい。」と、今後は、育種に興味がある若手生産者に技術を伝えていければと意欲的である。

石田　和香子（加西農業改良普及センター）
（問い合わせ先　電話：0790－47－1448）

図１　育成品種のハボタンを使った寄せ植え
（“キャンドル”シリーズは高さを生かした使い方が楽しめる新しいタイプのハボタン）

図２　ハボタンの交配
（ハボタンの交配には、花粉を運ぶ虫を使うことも多い。花粉が目的の花に付くよう、交配の組合せごとにネットで区分けをする。）

ひょうごの農林水産技術 No.148
平成18年11月１日（隔月刊）　兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）４７－２４００